

トレンド・キャッチ戦略ファンド（愛称：クラッシュハンター）

設定来の運用状況について

2022年2月9日

平素は当ファンドをご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。

当ファンドの設定来の運用状況などについてお知らせいたします。

当戦略のポイント

- ① ポジション構築を判定するポイントにおいて、基準値を超えずポジション構築がなければ、市場が上昇または下落しても収益化できません
- ② 当戦略のリターンは、日中の株価の値動きに大きく影響を受けます
(判定ポイントの前後で株価トレンドが継続することが重要)

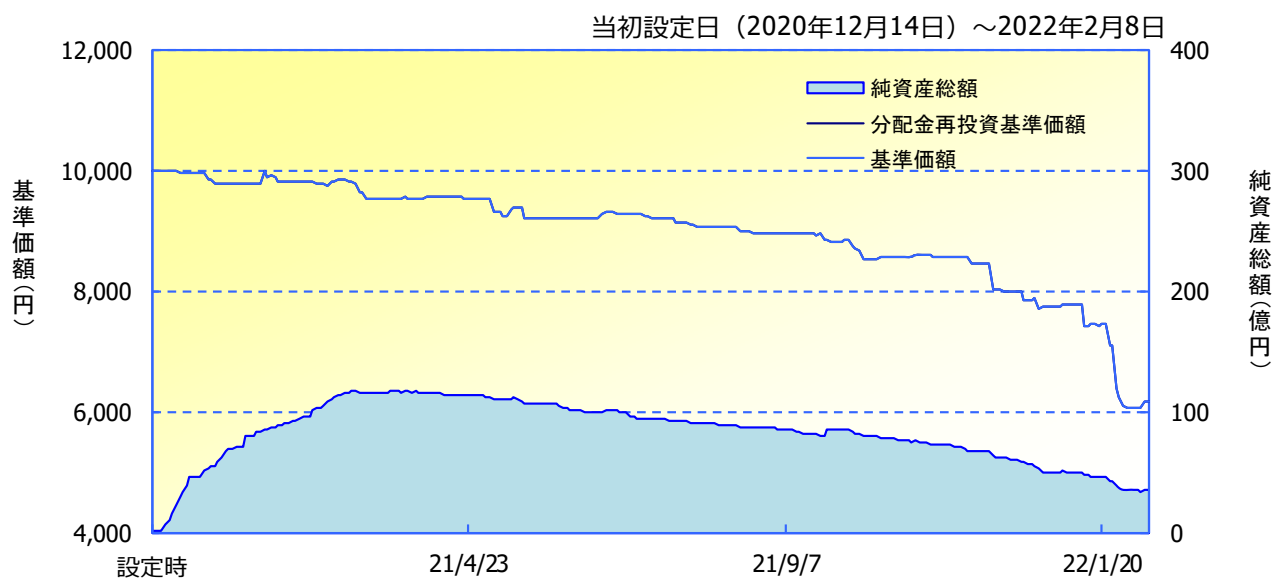
* 判定ポイントは、1日の取引時間中に3回設けています

* 原則毎営業日ポジションを解消します

■ 基準価額・純資産の推移

2022年2月8日現在

基準価額	6,174 円
純資産総額	34億円



※ 「分配金再投資基準価額」は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。
 ※ 基準価額の計算において、実質的な運用管理費用（信託報酬）は控除しています（後述のファンドの費用をご覧ください）。
 ※ 過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

ファンド設定来の当戦略の状況と市場環境について

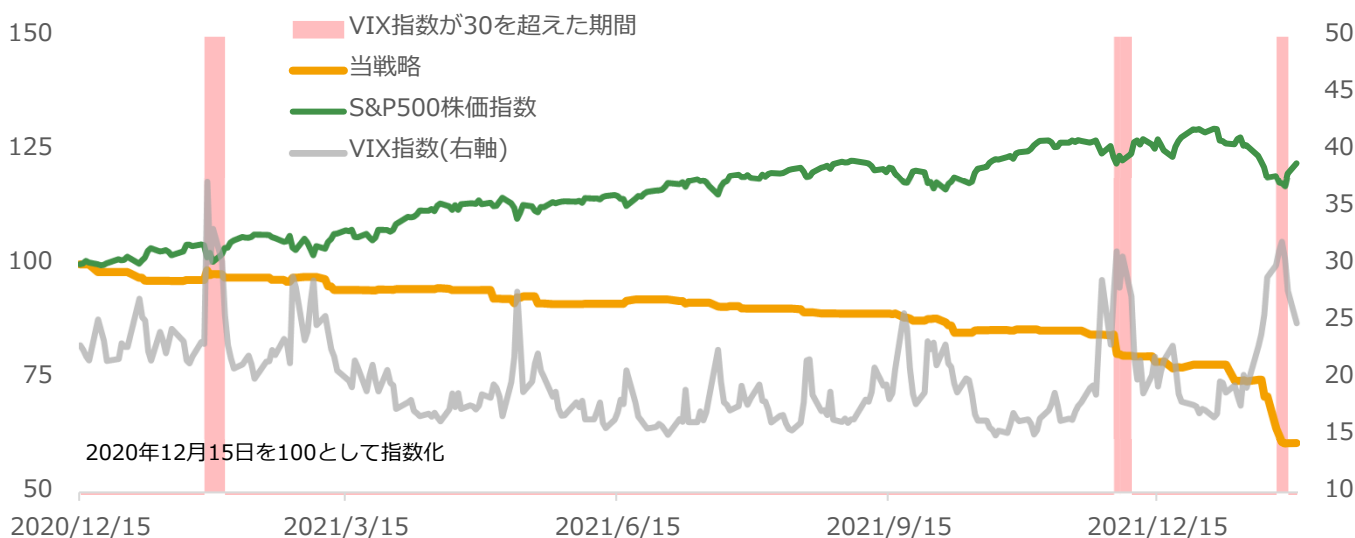
当戦略は、米国株式市場の日中（取引時間中）に大きなトレンドが発生し、それが米国株式の日中取引時間の引けにかけて継続する局面で効果を発揮しやすいという特徴があります。特に日中トレンドは、米国株式市場の大きな下落局面で強く継続する傾向にあるため、当戦略はとりわけ米国株式市場の危機時に収益を獲得しやすい傾向があります。

しかしながら、2020年12月（現地、以下同じ）以降においては、米国株式市場の日中トレンドが度々反転するような、当戦略が苦手とする市場環境が継続しています。米国株式市場の日中トレンドが明確にあらわれない、あるいは反転する傾向が顕著となっているのは、現在の米国株式市場において、FRB（米国連邦準備制度理事会）の金融引き締めに対する懸念というネガティブな要因と、底堅い企業業績や個人を含む投資家のセンチメントといったポジティブな下支え要因が混在しているためであるとみています。例えば直近では、予想外にFRBのタカ派的姿勢が示される、あるいは市場のセンチメント悪化により朝方の取引で米国株式が下落した場合に、好機と捉えた押し目買いが入って日中トレンドが反転するといった動きが散見されています。象徴的なのは、当戦略の単日の騰落率が-9.9%となった2022年1月24日の米国株式市場であり、S&P500種株価指数先物は前営業日の終値対比で一時約4%下落していたにも関わらず、劇的に上昇トレンドに転換し、単日の騰落率では0.3%のプラスとなりました。過去20年を振り返ってもS&P500種株価指数先物の日中トレンドがここまで劇的に反転したのは数回しかありませんでした。

このような懸念と下支え要因が均衡する状況が日中の株価トレンドが継続することを阻害していると考えており、VIX指数が相対的に高水準であるにも関わらず当戦略のパフォーマンスが軟調である原因の1つとみています。

当戦略と株価指数およびVIX指数の値動きの推移

（2020年12月15日～2022年1月31日）



（出所）ブルームバーグ、シティグループ・ファースト・インベストメント・マネジメント・リミテッドのデータを基に大和アセットマネジメント作成

※ 当戦略のパフォーマンスは、トレンド・キャッチ戦略ファンドの投資対象ファンドである「米国株式イントラデイ・モメンタム・ファンド（円建て・クラスA）」におけるスワップ取引の参照指数である「米国株式イントラデイ・モメンタム・レバレッジド指数（円建て、エクセスリターン）」のパフォーマンスであり、トレンド・キャッチ戦略ファンドのパフォーマンスではありません。

当戦略のリターン分析（S&P500株価指数の単日リターンとVIX指数による分析）

過去の当戦略と比べ設定来のパフォーマンスがマイナス・リターンとなる局面が多い背景には、VIX指数が高水準、即ち市場参加者が大きな相場変動を予測しているような局面においても、実際には大きな変動が発生しなかったり、または大きな変動が発生したのち日中で反転してしまった結果、日次では小さな変動にとどまっているということが挙げられます。

I ファンド設定以前（2008年1月4日～2020年12月15日）

S&P500株価指数のリターン

	-6%未満	-6%～-4%	-4%～-2%	-2%～0%	0%～2%	2%～4%	4%～6%	+6%以上
VIX水準								
80以上	6.6%							
60～70	7.8%	1.8%	-0.6%	-4.7%	-0.2%	0.4%	-2.2%	3.1%
50～60	6.7%	2.7%	-0.9%		-0.9%	-0.2%		7.8%
40～50	10.0%	3.1%	0.6%	-1.1%	-0.2%	0.1%	0.6%	5.6%
30～40		4.6%	1.3%	-0.5%	-0.2%	1.1%	2.4%	
20～30	当戦略の局面別リターン (日次平均)		1.8%	-0.2%	-0.2%	1.0%	2.3%	
10～20			2.3%	-0.1%	0.0%	1.5%		
0～10					0.0%			

+）当戦略が効果を発揮しやすい局面

相場が大きく変動し、日中の
トレンドが継続している局面
⇒当戦略のリターンは高い傾向

+）当戦略が効果を発揮しやすい局面

相場が大きく変動し、日中の
トレンドが継続している局面
⇒当戦略のリターンは高い傾向

I ファンド設定以降（2020年12月15日～2022年1月31日）

S&P500株価指数のリターン

	-6%未満	-6%～-4%	-4%～-2%	-2%～0%	0%～2%	2%～4%	4%～6%	+6%以上
VIX水準								
80以上								
60～70	設定後は 効果を発揮 しやすい局面 が発生せず			当戦略の局面別リターン (日次平均)				
50～60								
40～50								
30～40			2.2%	-1.8%	-0.5%			
20～30	0.7%			-0.3%	-0.3%	0.0%		
10～20				-0.2%	0.0%			
0～10								

-）当戦略が効果を発揮しにくい局面

相場の変動が小幅、または日中
のトレンドが反転している局面
⇒当戦略のリターンは低い傾向

（出所）ブルームバーグ、シティグループ・ファースト・インベストメント・マネジメント・リミテッド、S&P500のリターンはS&P500株価指数の米ドルベース

※当戦略のパフォーマンスは、トレンド・キャッチ戦略ファンドの投資対象ファンドである「米国株式イントラデイ・モメンタム・ファンド（円建て・クラスA）」におけるスワップ取引の参照指数である「米国株式イントラデイ・モメンタム・レバレッジド指数（円建て、エクセスリターン）」のパフォーマンスであり、トレンド・キャッチ戦略ファンドのパフォーマンスではありません。

設定来のS&P500騰落率とトレンドキャッチ戦略の騰落率

※ランキングの参照期間は2020年12月15日から直近月末迄になります。

当戦略は、S&P500株価指数が単日で大きく動いた時に真価を発揮しますが、設定来の株価指数の値動きは過去の大きな下落局面に比べて1日の動きとしては限定的でした。

S&P500騰落率 上位順

	日付	S&P500株価指数 騰落率	当戦略 騰落率
1	2022/1/28	2.4%	0.1%
2	2021/3/1	2.4%	0.2%
3	2021/12/7	2.1%	-0.2%
4	2021/3/5	1.9%	0.0%
5	2022/1/31	1.9%	0.1%
6	2021/12/21	1.8%	0.3%
7	2021/10/14	1.7%	0.6%
8	2021/3/26	1.7%	0.2%
9	2021/12/15	1.6%	0.0%
10	2021/2/1	1.6%	0.0%

S&P500騰落率 下位順

	日付	S&P500株価指数 騰落率	当戦略 騰落率
1	2021/1/27	-2.6%	2.2%
2	2021/2/25	-2.4%	0.9%
3	2021/11/26	-2.3%	0.0%
4	2021/5/12	-2.1%	1.4%
5	2021/9/28	-2.0%	0.4%
6	2022/1/5	-1.9%	0.0%
7	2021/1/29	-1.9%	0.2%
8	2021/11/30	-1.9%	0.3%
9	2022/1/21	-1.9%	0.1%
10	2022/1/18	-1.8%	0.4%

1日を通してトレンドが継続した局面ではプラス・リターンとなりやすい一方、ポジション構築後の相場の変動が小幅、またはトレンドが反転した局面では、当戦略のリターンは低い傾向にあります。

当戦略騰落率 上位順

	日付	当戦略 騰落率	S&P500株価指数 騰落率
1	2021/1/27	2.2%	-2.6%
2	2021/5/12	1.4%	-2.1%
3	2021/2/25	0.9%	-2.4%
4	2021/12/27	0.8%	1.4%
5	2021/6/18	0.7%	-1.3%
6	2021/10/14	0.6%	1.7%
7	2022/1/18	0.4%	-1.8%
8	2021/9/28	0.4%	-2.0%
9	2021/6/21	0.3%	1.4%
10	2021/5/14	0.3%	1.5%

当戦略騰落率 下位順

	日付	当戦略 騰落率	S&P500株価指数 騰落率
1	2022/1/24	-9.9%	0.3%
2	2021/12/1	-5.0%	-1.2%
3	2022/1/20	-5.0%	-1.1%
4	2022/1/10	-4.5%	-0.1%
5	2022/1/25	-2.5%	-1.2%
6	2022/1/26	-2.3%	-0.1%
7	2021/5/4	-2.0%	-0.7%
8	2021/12/20	-2.0%	-1.1%
9	2021/10/7	-1.8%	0.8%
10	2020/12/21	-1.7%	-0.4%

(出所) ブルームバーグ、シティグループ・ファースト・インベストメント・マネジメント・リミテッド、S&P500のリターンはS&P500株価指数の米ドルベース

※当戦略のパフォーマンスは、トレンド・キャッチ戦略ファンドの投資対象ファンドである「米国株式イントラデイ・モメンタム・ファンド（円建て・クラスA）」におけるスワップ取引の参照指数である「米国株式イントラデイ・モメンタム・レバレッジド指数（円建て、エクセスリターン）」のパフォーマンスであり、トレンド・キャッチ戦略ファンドのパフォーマンスではありません。当戦略がポジションを構築した場合においても、参照指数を算出する過程の四捨五入等により、リターンに影響を与えない場合においては、ポジション構築無として各種分析値を試算する場合があります。

当戦略が奏功しやすい株価指数の騰落率水準について

当戦略は、米国株式（S&P500株価指数）が大きく変動した局面、とりわけ大きな下落局面において、奏功する傾向があります。下記の単日のリターン分析を確認すると、過去においてはS&P500株価指数の単日リターンが±2%超に達した営業日において、当戦略が相対的に良好なリターンを創出する傾向が見てとれます。しかしながら、トレンド・キャッチ戦略ファンドの設定以降は、そのような局面の発生頻度が極端に少なくなっています。

ファンド設定以前（2008年1月4日～2020年12月15日）

S&P500のリターン	-6%未満	-6%～-4%	-4%～-2%	-2%～0%	0%～2%	2%～4%	4%～6%	6%以上
当戦略の累積リターン (合計値)	81.9%	70.0%	164.9%	-190.2%	-92.8%	82.5%	28.8%	52.4%
当戦略の平均リターン	7.4%	2.9%	1.3%	-0.1%	-0.1%	0.9%	1.4%	4.8%
当戦略の最大リターン	14.8%	6.6%	5.7%	1.8%	1.8%	3.8%	4.5%	16.7%
当戦略の最小リターン	0.0%	-2.0%	-5.9%	-10.9%	-5.7%	-9.1%	-2.2%	0.0%
営業日数	11	24	129	1311	1660	94	20	11
当戦略のリターンが プラス	9	22	102	157	303	78	14	8
ポジション構築無	2	1	15	779	977	5	4	3
当戦略のリターンが マイナス	0	1	12	375	380	11	2	0
当戦略のリターンが プラスの割合	82%	92%	79%	12%	18%	83%	70%	73%
ポジション構築無 の割合	18%	4%	12%	59%	59%	5%	20%	27%
当戦略のリターンが マイナスの割合	0%	4%	9%	29%	23%	12%	10%	0%

ファンド設定以降（2020年12月15日～2022年1月31日）

ファンド設定以降は当戦略が効果を発揮しやすい局面が相対的に少ない

S&P500のリターン	-6%未満	-6%～-4%	-4%～-2%	-2%～0%	0%～2%	2%～4%	4%～6%	6%以上
当戦略の累積リターン (合計値)	0.0%	0.0%	4.9%	-36.9%	-16.7%	0.0%	0.0%	0.0%
当戦略の平均リターン	0.0%	0.0%	1.0%	-0.3%	-0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
当戦略の最大リターン	0.0%	0.0%	2.2%	0.7%	0.8%	0.2%	0.0%	0.0%
当戦略の最小リターン	0.0%	0.0%	0.0%	-5.0%	-9.9%	-0.2%	0.0%	0.0%
営業日数	0	0	5	121	154	3	0	0
当戦略のリターンが プラス	0	0	4	11	22	2	0	0
ポジション構築無	0	0	1	80	96	0	0	0
当戦略のリターンが マイナス	0	0	0	30	36	1	0	0
当戦略のリターンが プラスの割合	-	-	80%	9%	14%	67%	-	-
ポジション構築無 の割合	-	-	20%	66%	62%	0%	-	-
当戦略のリターンが マイナスの割合	-	-	0%	25%	23%	33%	-	-

（出所）ブルームバーグ、シティグループ・ファースト・インベストメント・マネジメント・リミテッド、S&P500のリターンはS&P500株価指数の米ドルベース

※当戦略の営業日とは、S&P500株価指数先物の取引が行われた各日を指します。また、当戦略の各データがファンドの基準価額へ反映されるのには遅れが生じます。

※当戦略のパフォーマンスは、トレンド・キャッチ戦略ファンドの投資対象ファンドである「米国株式イントラデイ・モメンタム・ファンド（円建て・クラスA）」におけるスワップ取引の参照指数である「米国株式イントラデイ・モメンタム・レバレッジド指数（円建て、エクセスリターン）」のパフォーマンスであり、トレンド・キャッチ戦略ファンドのパフォーマンスではありません。当戦略がポジションを構築した場合においても、参照指数を算出する過程の四捨五入等により、リターンに影響を与えない場合においては、ポジション構築無として各種分析値を試算する場合があります。

戦略が効果を発揮しづらい局面について

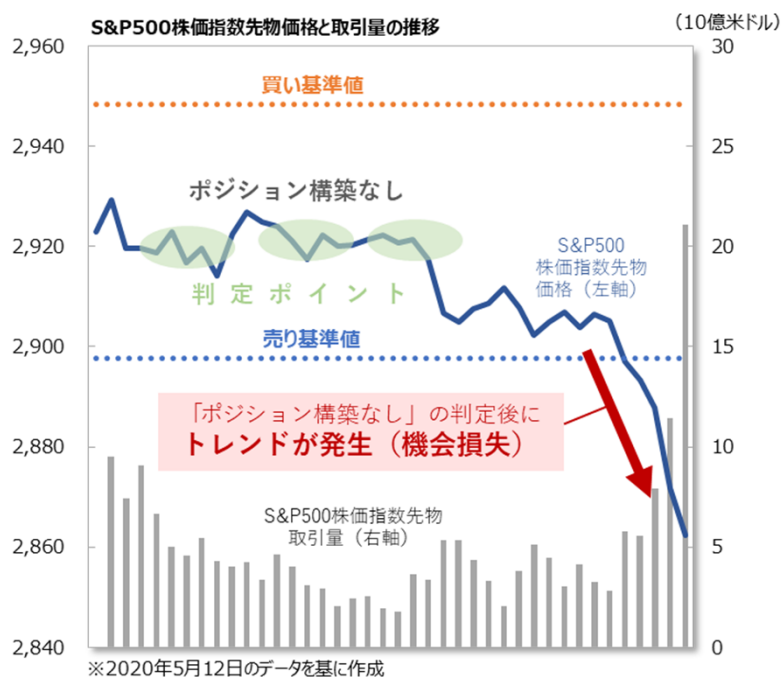
当戦略は、各判定ポイントにおいて株価トレンドが発生していないと判断された場合はポジションを構築しないため、収益を獲得できません。

また、ポジション構築後に株価トレンドが反転するケースにおいても、本来期待される収益が獲得できない可能性があります。

Ⅰ 効果を発揮しづらい局面①

「ポジション構築なし」の判定後にトレンドが発生し、S&P500株価指数が大きく動いているにもかかわらず、トレンド・キャッチ戦略は動かない場合があります。

このようなケースが発生しやすい要因の一例としては、**米国時間午後**に発表される**FOMC（米国連邦公開市場委員会）の金融政策が市場予想に反した場合**や**新型コロナウイルスに関するニュース、地政学的なリスクの高まりが懸念されるニュースなどが米国時間の午後に出てきた場合**などがあります。

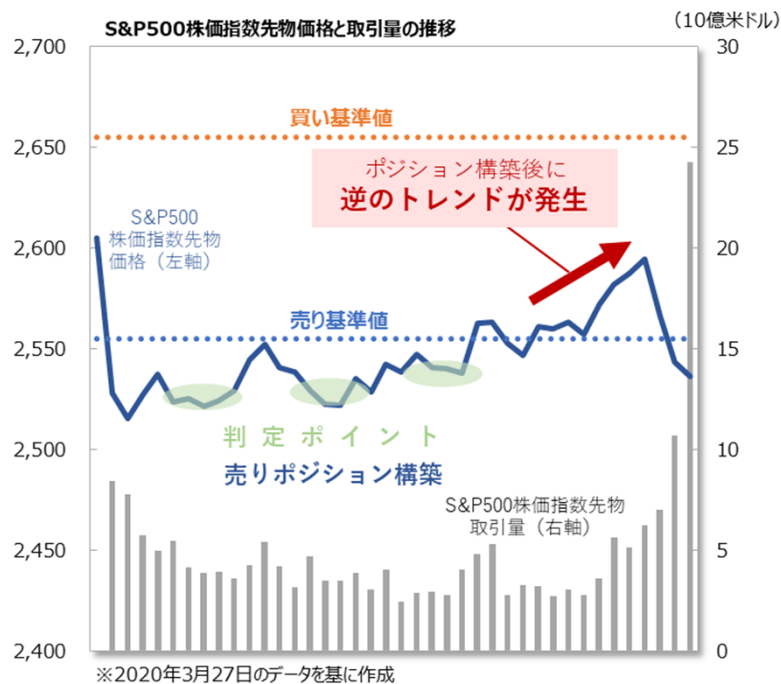


Ⅰ 効果を発揮しづらい局面②

ポジション構築後に株価のトレンドが反転し、本来期待される収益が獲得できない可能性があります。

このようなケースが発生しやすい局面としては**米国市場が開始した直後に大きく上昇または下落した時**になります。

アジア時間や欧州時間などに出た好材料または悪材料が出たことを背景に米国時間の開始直後は大きく反応するものの**行き過ぎた市場の反応に対する自律反発、利益確定の売りや押し目買いの動き**などが要因の一例として挙げられます。



(参考) 2008年来S&P500騰落率ランキングとトレンドキャッチ戦略

※ランキングの参照期間は2008年1月4日から直近月末迄になります。

■ S&P500騰落率 上位順

日付	S&P500株価指数 騰落率	トレンド・キャッチ 戦略 騰落率
1	2008/10/13 11.6%	16.7%
2	2008/10/28 10.8%	0.0%
3	2020/3/24 9.4%	5.4%
4	2020/3/13 9.3%	6.7%
5	2009/3/23 7.1%	8.7%
6	2020/4/6 7.0%	4.5%
7	2008/11/13 6.9%	0.0%
8	2008/11/24 6.5%	2.8%
9	2009/3/10 6.4%	3.5%
10	2008/11/21 6.3%	0.0%
11	2020/3/26 6.2%	4.0%
12	2020/3/17 6.0%	1.6%
13	2008/9/30 5.4%	0.7%
14	2008/12/16 5.1%	0.0%
15	2018/12/26 5.0%	3.1%
16	2020/3/10 4.9%	0.7%
17	2008/10/20 4.8%	0.0%
18	2011/8/9 4.7%	4.2%
19	2011/8/11 4.6%	3.8%
20	2020/3/2 4.6%	2.1%

■ S&P500騰落率 下位順

日付	S&P500株価指数 騰落率	トレンド・キャッチ 戦略 騰落率
1	2020/3/16 -12.0%	13.1%
2	2020/3/12 -9.5%	8.5%
3	2008/10/15 -9.0%	14.8%
4	2008/12/1 -8.9%	10.4%
5	2008/9/29 -8.8%	10.3%
6	2008/10/9 -7.6%	0.0%
7	2020/3/9 -7.6%	6.7%
8	2008/11/20 -6.7%	0.0%
9	2011/8/8 -6.7%	9.6%
10	2008/11/19 -6.1%	2.6%
11	2008/10/22 -6.1%	5.9%
12	2020/6/11 -5.9%	6.2%
13	2008/10/7 -5.7%	0.6%
14	2009/1/20 -5.3%	5.0%
15	2008/11/5 -5.3%	2.5%
16	2008/11/12 -5.2%	2.7%
17	2020/3/18 -5.2%	-2.0%
18	2008/11/6 -5.0%	2.9%
19	2009/2/10 -4.9%	2.3%
20	2020/3/11 -4.9%	3.3%

株価上昇時	データ数	20
トレンド キャッチ 戦略	ポジション構築数	15
	構築割合	75.0%
	上昇回数	15
	下落回数	0
	勝率	100%
	平均騰落率	3.4%

株価下落時	データ数	20
トレンド キャッチ 戦略	ポジション構築数	18
	構築割合	90.0%
	上昇回数	17
	下落回数	1
	勝率	94%
	平均騰落率	5.3%

- 当戦略は、S&P500株価指数が大きく動いた時に真価を発揮します。

(出所) ブルームバーグ、シティグループ・ファースト・インベストメント・マネジメント・リミテッド、S&P500のリターンはS&P500株価指数の米ドルベース

※当戦略のパフォーマンスは、トレンド・キャッチ戦略ファンドの投資対象ファンドである「米国株式イントラデイ・モメンタム・ファンド (円建て・クラスA)」におけるスワップ取引の参照指数である「米国株式イントラデイ・モメンタム・レバレッジド指数 (円建て、エクセスリターン)」のパフォーマンスであり、トレンド・キャッチ戦略ファンドのパフォーマンスではありません。当戦略がポジションを構築した場合においても、参照指数を算出する過程の四捨五入等により、リターンに影響を与えない場合においては、ポジション構築無として各種分析値を試算する場合があります。

I ファンドの目的・特色

ファンドの目的

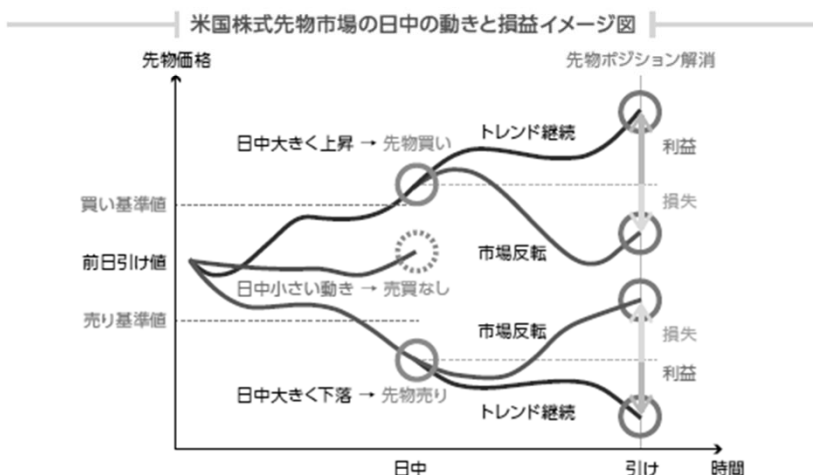
米国の株価指数先物取引の売買により信託財産の成長をめざします。

ファンドの特色

円建て短期公社債等へ投資を行なうとともに、トレンド・キャッチ戦略に基づく米国の株価指数先物取引の売買により収益の獲得をめざします。

● トrend・キャッチ戦略とは

- 米国株式市場の取引時間内における S&P500 株価指数先物価格のトレンドを捉えることをめざします。
- S&P500 株価指数先物価格が日中に前日比で一定率以上上昇した場合には株価指数先物取引を買建て、一定率以上下落した場合には株価指数先物取引を売建てます。
- 株価指数先物取引はすべて当該取引日の取引終了までに反対売買を行なって損益を確定します。
- 株価指数先物取引の買建または売建のポジション総額は、見込み純資産総額の **3 倍程度** を上限とします。



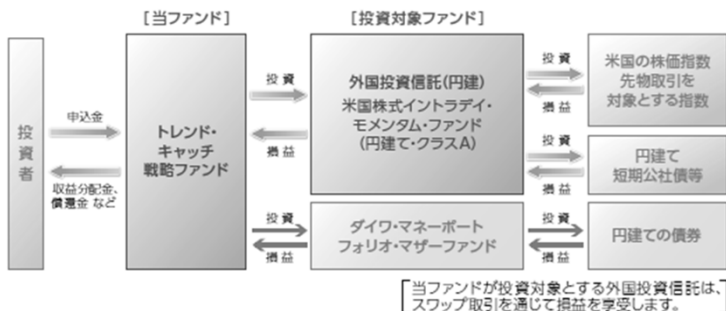
※ 上記のイメージ図は、先物価格変動の推移の例です。したがって実際の価格および基準価額の推移を示唆しているわけではありません。また、本戦略のすべてを説明するものではありません。

※ 当ファンドの将来の運用成果を保証または示唆するものではありません。

※ 当ファンドは、「米国株式イントラデイ・モメンタム・ファンド（円建て・クラスA）」への投資を通じて、トレンド・キャッチ戦略の実現をめざします。

ファンドの仕組み

- 当ファンドは、以下の2本の投資信託証券に投資する「ファンド・オブ・ファンズ」です。
- 外国投資信託の受益証券を通じて、円建て短期公社債等へ投資を行なうとともに、実質的に米国の株価指数先物取引を行ないます。
- 当ファンドが投資対象とする外国投資信託では、スワップ取引を通じて損益を享受します。



※ くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「ファンドの目的・特色」をご覧ください。

投資リスク

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。基準価額の主な変動要因は、以下のとおりです。

「株価指数先物取引の利用に伴うリスク」、「公社債の価格変動（価格変動リスク・信用リスク）」、「為替変動リスク」、「カントリー・リスク」、「スワップ取引の利用に伴うリスク」、「当ファンドが実質的に活用する戦略に関するリスク」、「その他（解約申込みに伴うリスク等）」

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」をご覧ください。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
購入時手数料	販売会社が別に定める率 〈上限〉3.3%（税抜3.0%）	購入時の商品説明または商品情報の提供、投資情報の提供、取引執行等の対価です。
信託財産留保額	ありません。	—
投資者が信託財産で間接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
運用管理費用 （信託報酬）	年率 1.2375% （税抜 1.125%）	運用管理費用の総額は、日々の信託財産の純資産総額に対して左記の率を乗じて得た額とします。
投資対象とする 投資信託証券	年率 0.2%程度	投資対象ファンドにおける運用管理費用等です。
実質的に負担する 運用管理費用	年率 1.4375%（税込）程度	
その他の費用・ 手数料	（注）	監査報酬、有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等を信託財産でご負担いただきます。

（注）「その他の費用・手数料」については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※購入時手数料について、くわしくは販売会社にお問合わせください。

※手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手続・手数料等」をご覧ください。

設定・運用：

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

商号等

大和アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第352号

加入協会

一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は、ファンドの状況や関連する情報などをお知らせするために大和アセットマネジメント株式会社が作成したものです。
- 当ファンドのお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を必ずご確認くださいのうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券などに投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資元本が保証されているものではありません。信託財産に生じた利益および損失はすべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。
- 投資信託は預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。証券会社以外でご購入いただいた投資信託は投資者保護基金の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載する指数・統計資料などの知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。また、税金、手数料などを考慮しておりませんので、投資者の皆さまの実質的な投資成果を示すものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。記載する投資判断は現時点のものであり、将来の市況環境の変動などを保証するものではありません。
- 当資料中で個別企業名が記載されている場合、あくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。
- 分配金は収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

トレンド・キャッチ戦略ファンド（愛称：クラッシュハンター） 取扱い販売会社

販売会社名（業態別、50音順） （金融商品取引業者名）		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 第二種金融商 品取引業協会
第四北越証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第128号	○			
大和証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第108号	○	○	○	○

上記の販売会社については今後変更となる場合があります。また、新規のご購入の取り扱いを行っていない場合がありますので、各販売会社にご確認ください。